

くも いと  
蜘蛛の糸

あくたがわ  
芥川

りゅうのすけ  
龍之介

ある日ひの事ことでいじむります。

おしゅかさま いくはく はすいけ

御釈迦様は極樂の蓮池のふちを、

ひとりひとでおある

独りでぶらぶら御歩きになつて

いらつしゃいました。

いけ なか さ はす はな

池の中に咲いている蓮の花は、

みんな玉たまのようようにまっ白しろで、

そのまん中なかにある金色きんいろの蕊ずいからは、

何なんとも云いえない好よい匂においが、

絶間たえまなくあたりへ溢あふれて居おります。

いくはく ちよしむめ

極樂は丁度朝ちよしむめなのでいじむりますしよし。

おしゃかさま  
いけ  
やがて御釈迦様はその池のふちに

おたたず

みず

おもて

おお

御佇みになって、水の面を蔽っている

はす

は

あいだ

した

ようす

蓮の葉の間から、ふと下の容子を

ごらん

御覧になりました。

じゅうたん

はすいけ

した

ちようどじいしん

そこ

この極楽の蓮池の下は、丁度地獄の底に

あた

お

すいしやう

みず

当って居りますから、水晶のような水を

す

とお

さんず

かわ

はり

やま

けしき

透き徹して、三途の河や針の山の景色が、

ちようどのぞ

めがね

み

丁度覗き眼鏡を見るように、はつきり

み

見えるのびじりま